

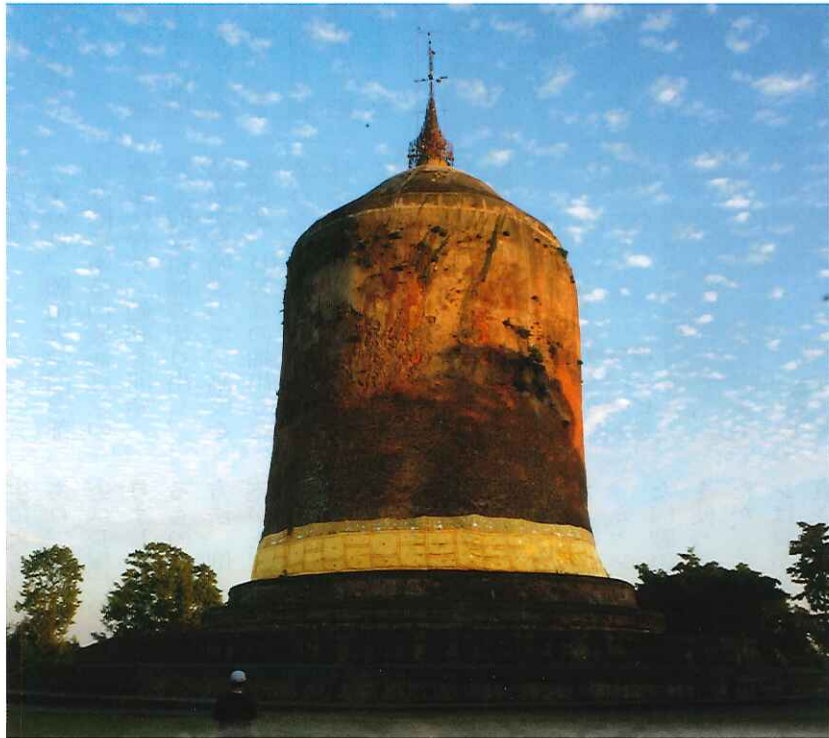


ミンガラバー

こんにちは

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL: 086-224-0102
FAX: 086-221-2554
URL: http://www.mjcp.or.jp

寄付クリニック 新たに3カ所



協会の呼びかけに応じてミャンマーへ寄付のクリニックが3カ所、相次いで完成した。贈ったのは会員、高校、会社。これで寄付クリニックは全部で17カ所になった。

華やかな飾りつけや風船で開所を祝ったニチャンギン



会員の荒木さん贈る 住民も協力金

ヤンゴン中心地から北西へ車で約3時間。エーヤワディ管区のニチャンギンとい

う町に「荒木クリニック」ができ、1月2日に贈呈式があった。
協会の岡山市中区湊、荒木富美子さんからの寄金をもとに、それに地域の人も協力金を出し合った。新しいクリニックは2階建て、住民の期待は大きく、約300人が集まって開所を祝った。
荒木さんは初めてミャンマーを訪れた時に、この国の人々の温かさややさしさに触れて感動。今回が8回目の訪問だった。
「何度もミャンマーにきているうちにミャンマーが好きになりました。人々が健康で幸せになる助けになればうれしい」と開所式で挨拶。荒木さんや日本からの参加者は文房具などを持参、町の小学校に贈った。
式後のクリニック診療開始のときには大勢の行列ができ、この日だけで約90人が受診した。糖尿病や高血圧の患者が多かった。

これがミャンマー初の世界遺産

巨大な釣鐘のような、この建造物は何？ ミャンマーの大河エーヤワディ川中流域で、7世紀から9世紀にかけて栄えた王国「ピュー」の仏塔の1つ。これはピーという市の外れのスリクセトラという所にある。

ほかに発掘の進んだバイタノーとハリンを合わせた3カ所の城塞都市跡が「ピュー古代都市群」として2014年、ミャンマー初の世界遺産に登録された。

(岡田茂理事長撮影)

岡山学芸館の生徒ら募金

産院前で地元婦人会の人たちと記念撮影の生徒たち



1月5日、贈呈式があったのは「岡山学芸館高校産院クリニック」。ヤンゴン郊外の約5万人が住むタケタ地区にある八田治療クリニック内に

設けた産院だ。
岡山市東区の同高校では2016年3月、生徒4人が森健太郎校長と一緒にミャンマーを訪ね、観光のほか、協会員らによる寄付クリニックを見学した。岡山市在住の故八田武志さんが寄付した八田クリニックもその1つだった。
生徒たちはこの時の体験からクリニックの寄付を思い立ち、学校側も協力。夏休みや学園祭などで募金活動をした。
タケタ地区では産院がないため、車で約1時間かかるヤンゴンの病院などで出産しなければならなかった。新しい産院では産婦人科医が巡回診療し、助産師2人が常駐する。
贈呈式には同高校の森校長や医療系学部志望の生徒ら11人が出席。式の模様はミャンマーの公共テレビが取材、全国放送された。

世界遺産のまちに産院

ニチニチ製薬寄付

世界遺産「ピュー古代都市群」があるバゴ管区のピー市で4月3日、「北村



テープカットの後、嶋田さん(前列左から2番目)は風船を飛ばして祝ったニチャンギン

記念産院クリニック」の開所式があった。三重県伊賀市のニチニチ製薬が寄付、親会社のデイリー社(大阪市西区)の北村守会長の名前から名付けられた。
協会の岡田茂理事長が岡山大学の教授時代、ミャンマーでの肝炎対策事業を同製薬と共同で実施。この縁から同社は毎年120万円ずつ協会に活動資金を寄付している。

開所式にはニチニチ製薬から嶋田貴志さんと五島明子さんが出席。バゴ管区のウインティン首相ら大勢の地元関係者が参加して祝った。

嶋田さんは「岡田理事長との共同研究は終わったが、ミャンマーとまた新しいつながりができてうれしい」と挨拶をした。

新しい産院はミャンマー健康財団が運営するクリニックの敷地内にあり、医師2人と助産師1人が常勤する。

貴重な経験生かします

ネピドー総合病院
タンピョウジンさん

ミャンマー政府から岡山
大学での研修生に選ばれた
ことを聞いて、さっそく日
本大使館にビザを貰いに行っ
たが、日本での滞在が3カ
月より1日超過していたた
め、許可がおりませんでした

招きので、岡山大学歯学部口腔病理学教室
で研修を受けた。去年9月から11月ま
で3カ月間。2人に研修の様や日本
印象などについて書いてもらった。

最高の国の秘密 少しわかりました

タウンジー・サオサントウン 総合病院
ノウメイピョウさん

口腔病理を研修



●口腔病理学教室の雲塚
スタッフと一列右が雲
大社で。後列右島根県出雲
教授一島根県出雲
●着物のタンピョウジン
ジンさん(左)とノウメイ
ピョウさん(右)岡山
後楽園

私たちは2016年9月
4日、関西空港に着き、バ
スで岡山に向かうことにし
ました。待っている時間に
バスの乗車券をなくしてい
ることに気づき、ポケット
や袋、リュックサック、歩
いてきた道や待合室を探し
ましたが、見つかりません。
バス乗り場近くにいた制服
の人に助けを求めると、驚
いたことには、彼が乗り場

の箱を開けるとその中から
私の切符が出てきたのです。
私は嬉しいだけではなく、
日本には勝てないな、と思
いました。私の日本の第一
印象は最高でした。
口腔病理学教室のすべて
のスタッフは私たちに優し
く迎えてくださった。長塚
仁教授はウィットに富み、
愛情のこもった方です。口
腔病理の天才で、教え方も

生による診断病理の講義が
あり、水曜日と木曜日の夕
方は長塚仁教授の講義があ
りました。教授は、見てい
るものの実体を見付け出す
方法、例えば、見ている細
胞が正常かどうか、若もし
異常だとすれば、どの様な
状況でそのようになったの
か、その原因と結果を的確
に指摘してくださった。
金曜日の夕方は病院病理部
に行き、柳井広之教授から
細胞診を教えてもらいまし
た。

ミャンマーから持ってきた
た口腔の扁平上皮癌の標本
を使って種々の染色を試み
たが、ミャンマーのパラフィ
ンは質が悪く、新しく作り
直さなければなりません。
これらの作業では技師の船
越和子さんが沢山助けてく
素晴らしいものでした。
中野啓介教授からも多
くの事を学び、私たちが理
解できないことがあると分
かりやすく説明してくれま
した。また、いつも笑みを
浮かべ、あらゆることで助
けて下さった技師の船越和
子さんは私の生涯で忘れる
ことのできない人です。
岡山や周辺の多くの有名
な場所を巡りました。
島根県の出雲大社へは
教室の全員で訪れ、温泉に
も連れて行ってもらい、羊のパー
ベキョウレストランで昼食を
とりました。京都は金閣寺、
竜安寺、伏見稲荷大社と
本当にびつくりするような

ださった。
長塚教授と船越さんの計
らいで日本の伝統的な着物
を着る機会があり、私たち
は着物姿で後楽園や岡山城
を歩き、記念に沢山の写真
を撮りました。
日本の良いものを挙げて
みます。最新の口腔病理学、
紅葉の色の移り変わり、冷
やかで気持ちの良い天候、
美味しく脂肪の少ない健康
的な日本食、ごみの散らかっ
ていない道路、進歩した技
術、躰が行き届き勤勉で礼
儀正しい日本人・・・。
岡山で出会った皆様、本
当に有難うございました。
この貴重な経験から、私
は宣言します。「私は人類
の幸福・福祉に貢献します。
これまで得た経験を皆さん
と分かち合います」

旅でした。歯科用機器メーカー
のモリタ製作所の工場見学
もさせてもらいました。
岡山滞在中の3カ月は、
口腔病理の勉強ばかりでは
なく、日本の歴史、文化、
生活様式、伝統的な食事も
服装についても知りました。
最高の国の秘密も少しわか
りました。
ミャンマーも日本のよう
になつてほしいと思います。
最後になりましたが、こ
の地で勉強することができ
たのは岡田茂理事長らNP
Oの皆様のおかげであり、
また私たちが受け入れて下
さった岡山大学の皆様に感
謝致します。

医療支援に30人 岡山大を中心に

岡山大学病院を中心に医
師、看護師ら約30人が1月
にミャンマーを訪れて医学
研究大会へ出席し、手術指
導などを行った。
医学研究大会では、子宮
がんの診断をテーマに柳井
広之・岡山大病院教授が話
した。またシンポジウムで
は、生活習慣病について和
田淳・岡山大教授、医療ス
タッフの教育について千堂
年昭・同教授が話したり助
言したりした。
ヤンゴン、タウンジー(シヤ
ン州)の両総合病院で、岡
山大病院形成外科、麻酔科、
看護科のグループが手術指
導。小野成紀・川崎医大教
授らの脳外科グループはヤ
ンゴン総合病院で、笠井裕
一・三重大教授ら整形外科
グループはモラミヤイン

総合病院(モン州)でそれ
ぞれ指導した。
岡山大病院口腔外科の水
川展吉講師ら3人はタウン
ジー総合病院で口腔がん検
診を行った。
協会だより
**20人准看護師へ
あかね基金3期生**
協会理事の西山央子さん
が設立した准看護師育成の
「あかね基金」を受け、3
期生20人の始業式が4月1
日、エーワディ管区のチャ
ウンゴン市であった。半年
間の研修後、准看護師にな
る。
1、2期生から5人ずつ
が祝いにつけ、協会
からは岡田理事長や岡山協
立病院医師豊田博さん夫妻
と孫ら7人が参加した。
式的費用は、高速道路サー
ビスエリアのテナント団体

である西日本高速道路エリ
ア・パートナーズ倶楽部か
ら協会への寄付金の一部を
充てた。
3月29日には岡田理事長
らは、西山理事の寄付で昨
年秋にシヤン州の山岳地帯
にできた小学校を訪問。在
校生40人や近隣の小学生、
地元住民ら大勢の歓迎を受
け、持参の文房具やおもちゃ
などを手渡した。
病院備品ヤンゴンへ
岡山県赤磐市から旧市民
病院のベッドや車いす、移
動式トイレなど約200点
の寄贈を受け、ヤンゴンで
ボランティア団体が運営す
る老人健康施設で使っても
らうことにした。
同病院は2年前に廃止
されて診療所に。備品の中
には十分に使えるものがあ
り、4月7日、現地で贈呈
式を行い、感謝状を受け取っ
た。

編集後記

相次いで完成した寄付クリニッ
クの1つ、北村記念産院クリニッ
クの場合がミャンマー初の世界遺
産「ピュー古代都市群」のある町と聞いて、「バガン
遺跡」のことを思い出しました。協会発足前年の
2005年にミャンマーを訪れた時、バガンへも足を延
ばしたのです。林立する大小さまざまな寺院やパゴ
ダが落日に染まって、それは幻想的でした。そんな
夕景に身を置きながら、アンコールワットとポロブドゥ
ールとともに「世界三大仏跡」と言われるだけのこ
とはあると納得。いずれ、この国で真先にユネスコ
の世界遺産に登録されるに違いない、と思ったもの
です▼それが今なお未登録なのはなぜか。この付近
で起きた1975年の大地震で、寺院の壁やパゴダの
頂上部などがあちこちで崩壊。修復は瓦礫を再利
用し元通りにすべきなのに、この時はセメントで塗り
固めたり、寺院の中にはもともとなかった塔を付け
加えたりと、杜撰な工事をしたのが理由だそうです。
去年8月にまた地震があり、遺跡に被害がでましたが、
今度はユネスコの専門家が現地入りして修理方法
を指導中です。順調に修復が進めばきっと世界遺
産になるでしょう。(西崎)